

平成 19 年 4 月 12 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム 第 1 回講話

まず最初に、お礼を申し上げます。

3 月 18 日の中斎塾創立記念式典は、皆様方の御協力で順調かつ成功裏に終わりました。

有難うございました。

ここ湯島聖堂の大成殿前で、第一部の論語の素読と王陽明の啾々吟の奉納合吟をして戴きました。

非常に厳粛な気持ちになりまして、思わずピンと背筋が伸びました。

第二部ホテル聚楽での懇親会も、普通こういった会では、乾杯が終ると途中退席される方が多いのだそうですが、ほとんどいらっしゃいませんでしたので、ホテルの方も驚いていました。

篤く感謝申します。

昨年 7 月から中斎塾準備フォーラムを重ねて参りましたが、4 月から中斎塾フォーラムは正式にスタート致します。

どうぞよろしくお願い致します。

お手元にレジメがございますので、ご覧戴きたいと存じます。

中斎塾フォーラムで一年間こういう事をしたい、という内容が書いてあります。

まず皆様にお聞きします。

昨日朝起きてから夜寝るまで、嘘をつかなかったという方は手を挙げて下さい。

一週間嘘をつかなかったという方はどれくらいおられますか・・・？

嘘をつかない人生を送れると素晴らしいと思います。

しかし自分の記憶にない所でリップサービスをしていたり、嘘をつかないで過ごされているというのはかなり大変な事だと思います。

私も含めて、是非、嘘をつかない人生でいきたいと思っておりますので、冒頭に毎回申し上げたいと思っております。

始めて参加の方が多いため、フォーラムの目的を申します。

会社を経営された方や事業を起こされた方は、ある程度まで順調に行くと、何か心が渇いてくるそうです。

心に空しさを感じる。

順調に人生を過ごしてきたと思う方も、とんでもないアクシデントに見舞われることがあります。

アクシデントに見舞われない方でも、そこはかとなく「私の人生はこれで良いのか・・・」と、空しさや切なさ、切実な心の渇きを覚える。

そうすると「学びたい」という気持ちが湧き上がってくるのが普通だそうです。

大学に再入学したり、学生となって講義を聴講したりする人が非常に増えています。

ここ湯島の聖堂でも様々な講座が開催されていますが、来られる方を見ておると、先生は大体定年で大学を終られて講師としてお出でになるわけですから、70代・80代でしょうか。

お聞きになっている生徒さん方は、もっとお年が上ではないかと思う方もおられます。

しかし皆さんとても熱心です。

このフォーラムの目的は、心が渇いて学びたいという、80代の方から見ると比較的まだ若い世代の方々を対象にお話しをさせて戴く。

特に「人生真っ当に生きたい」「真っ当に生きるためにはどうしたらよいのか」という事を、一緒に追求していきたいと思っています。

基本的な考え方は、「知足」(足るを知る)ということの基本哲学にして、ずっと一年間追いつけて、自得する。

私がお話ししたものをきっかけにして、自分でピンときて戴く。

自分の自得する感覚が体験出来れば良いと思います。

体験をし、そういった考え方や行動・原理を提唱して日本の国内に広げ、やがて世界に広げる動きをしていきたい。

世界の役に立つ、地球の役に立っていく。

人類の役に立っていくものの考え方、それをこのフォーラムで提唱し広げていきたい。

これが中斎塾フォーラムの目的です。

同時にこのフォーラムの目的は、「知足とは何か」ということを一生懸命考え、実行することです。

知足は「足るを知る」ですが、まず初めに「知る」というところから始めなければいけま

せん。

「知っている」という事はなかなか難しいですね。

夫婦でさえも、なかなか相手の嗜好や考え方、思っていることを「知っている」とは言えません。

「知っている」という言葉は、表面的な知っているという事実、つまり表層的な知識だけなのか、それとももう少し深い知識なのか。

表面的な知識は雑識と言います。

雑識がどんどん深くなっていくと、直観力が働きます。

それがもう少し学びを深めていって、学問が身に付いて、何か問題があった時解決すべき判断基準がしっかり出来ている方の場合は見識となり、それが体験と結び付いた時には、叡智という知識に変わります。

ですから雑識、直観を伴う知識、そして見識を伴う叡智と言われる知識に変わっていきます。

ですから自分の持っている「知っている」という知識は、どのポジションかと考えるとよからうと思います。

フォーラムの三番目の目的は、フォーラムを通じて私が申し上げる中で、身を処す判断基準を、気に入ったものがあれば覚えて戴きたいと云う事です。

本質・大局・歴史という判断の三原則ですが、これは内容を状況に応じて色々とお話し致します。

そしてその結果として、良い生活習慣を身に付けて下されば素晴らしいと思っています。仕事の上でも、健康維持の上でも、家庭生活や交遊・・・すべてにおいて、出来る限り良い生活習慣を我がものとして戴きたいと思います。

そして最後には、社会に提言・行動する場所を作りたいと思っています。

その出だしが季刊誌（これは年4回発行致します）と、こういった学びの場を持ち、一年に一回年次大会をしようと思っています。

今予定しているものは、来年の1月に二松学舎大学において、午前中は＜足るを知る＞という考え方で中斎塾フォーラムの顧問の先生方に基調講演をして戴き、午後は五つ程の分科会を開いて、＜足るを知る＞の考え方の掘り下げをしようと思っています。

そして三年経ちましたら、自分達の判断基準、自分自身の身の処し方の判断基準に続いて、組織としての判断基準をそれなりのものとして作り上げて、更に三年後には、日本の国を構成している自治体の判断基準を作り出して、世の中に提示していきたい。

自治体関係の判断基準が出せるようになったら、次は日本の国、そして世界の国々の判断

基準に目を向けます。

今の世界の国々はGDPという判断基準が一人歩きしていますが、これはもう現実と合いません。

ですから世界の国々、世の中の人々が、「なるほどな・・・」と思う判断基準を正式に出して、世界に広げていきたいと思えます。

まずは、自分自身の身の処し方を学んでいきたいと考えています。

これが中斎塾フォーラムの目的です。

知足は、「もっと、もっと」と言わない事。

非常に単純です。

今日「知足」で覚えて戴く事は、もうちょっとという所に自分で歯止めをかける事だと思っ
て下さい。

では、中斎塾フォーラムの進め方を申します。

レジメをご覧下さい。

まず、**私の好きな言葉**・・・これは年間通して申します。

「うそをつかない」「利によりて行なえば、怨み多し」これは色々な角度から申します。

次に、**心に残る言葉**・・・これは毎回違った言葉をご紹介します。

今日選んで参りましたのは、『心に響く言葉』(安岡正篤著 DC S刊)という本の中から、
巨巖の顔を選んで参りました。

その次に、**テーマ**として、知足・事上磨练と知行合一・人生の五計・経営と切磋琢磨・生活習慣・六中観・判断の三原則・総合的直観力・時事判断を書きました。

これらのテーマは皆深く、何年も続くテーマばかりです。

今日は生活習慣(食事と健康)を申し上げます。

では最初の、私の好きな言葉を申します。

うそをつかない。

先ほどもお話し致しました。

うそをつきかけたら、一瞬はっと止めて下さい。

一回うそをついたら、目に見えないけれど、顔が黒ずんだらうと思って戴くと怖くなり
ますね。

利によりて行なえば、怨み多し。

これは経営者の判断基準です。

論語の中にある言葉ですが、生涯これを守り抜いた方が渋澤栄一です。

日本に株式会社の制度を導入し定着させた人で、近代資本主義の父と言われています。

渋澤栄一は、「自分は官界・民間の中で生きてきたけれども、困った事がいつも沢山ある。どうやって判断すればよいか分からないので、色々考えた結果、論語を自分自身の判断基準にしようと決めた」と言っています。

自分の判断基準は論語である。

その中の、「利によりて行なえば、怨み多し」を一生涯を貫くのだと決めて、実際に一生涯貫いたわけです。

生涯で五百数十社の日本の基幹企業を創り、それ以上の福祉・社会保障の団体に関係していた、大変な巨人です。

利によりて行なえば、怨み多し・・・私も経営していく中で、いくつも同じような事があります。

32年前に私は会社を興しましたが、その当時取引先の或るお客様から、仕事を全面的に我が社に依頼する代わりにリベートが欲しいと要求されました。

仕事がどんどん増える良い話ですが、しかしそこには毒饅頭が付いていて、断ったらどんどん仕事がなくなるかもしれない。

目の前の小さな利益に目がくらんで、パクッと食いつくと、大きな利に相当な影響が出る。姿勢を間違える事になります。

経営哲学に反するという事で、そのお客様をお断りしました。

何か大きな仕事や儲け話が来た時に、欲につられてパクッと食いつかないで、<ちょっと待て>と思う。

そうすると冷静な判断が働きます。

「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉がぽんと浮かべば良いですね。

次に**心に残る言葉**を紹介致します。

本日は「**見よ、アーネストこそ巨巖の顔だ**」という言葉をご紹介します。

『巨巖の顔』という物語があります。

山の谷あいの小さな村に、アーネストという小さな男の子がいます。

村から見える向こうの山の岩肌には、神々しい大きな慈愛に満ちた巨巖の顔が見える。

男の子はお母さんから村の言い伝えを聞きます。

それは、この村からは偉大で高貴な人物になる運命の子供が生まれ、その子供の顔は、大人になると巨巖の顔に似てくるというものでした。

アーネストが少年になった頃、村から出て成功した経営者がやって来ます。

アーネストも、その経営者が巨巖の予言された顔なのだろうと思って、群衆の中からワクワクしながら見るわけです。

そうすると期待している顔と違うのがっかりします。

巨巖の顔の岩壁を見ると「がっかりしないでいいよ。そのうち予言された人物は出てくるよ」と言っているような気がする。

アーネストが青年になって、人々がその経営者を忘れ去った頃に、やはり村から出た将軍が現れます。

けれどもその人も慈しみのない顔で、やはりがっかりするのです。

中年になった頃、今度は政治家がやって来ます。

皆に囲まれてやって来る姿を見て、やはりがっかりする。

アーネストは老人になりました。

アーネストは日頃の生活、普通の会話の中で、良いなと思う事を近所の人たちに話をするようになっていました。

それがだんだん広がって行って、遠近から多くの人々がアーネストに会いに集ってくるようになりました。

ある詩人の耳に入って、詩人が尋ねてきます。

詩人は、アーネストと語り合って、アーネストのような人は今迄会ったことがない、アーネストの生涯と人格は、今迄書いたことがないほどの高尚な調子の詩であると感じました。

二人が歩いて行くと、ちょうど夕日が巨巖の岩壁に差し掛かったのを見て、詩人ははっと気が付くわけです。

そして思わず感動のあまり、「見よ、アーネストこそ巨巖の顔だ」と叫ぶのです。

人は一生涯通じて憧れの人をもって、一生懸命身を精進し努力をしていくと、知らず知らずの間に、その方に自然と似てしまうという話です。

回りを見ると、巨巖の顔の人が沢山おられると思います。

それは憧れの人です。

憧れると、自然と動作や態度がその人に似てくるそうです。

ちなみに渋澤栄一の憧れの方は、孔子でした。

「孔子のような一生を送りたい、孔子をお手本としたい」と書き残しています。

憧れの人がいるという事は、内面生活はすごく豊かです。

そこに向かって進んで行けます。

目標になる人物がいないと悲しいですね。

この安岡正篤先生の『心に残る言葉』は、二つに分かれていて、前半は昭和 44 年に青年研修大会で講話をしたものがまとめて入っております。

後半は、昭和 34 年から 38 年に渡って、日本放送で「暁の鐘」というタイトルでラジオ放送されたものです。

安岡先生の書かれた本の中では非常に読みやすい本ですので、ご推薦します。

では、本日のテーマに参ります。

生活習慣（食事と健康）について、体験談の方がよろしいので、私の生活習慣をいくつか申します。

最近私は 6 : 6 : 1 2 の法則を実践しています。

朝 6 時に朝食をとります。

その 6 時間後の 12 時に昼食をとり、6 時間後の 6 時に夕食をとります。

それから 12 時間後、翌朝 6 時に朝食です。

このリズムをとっていたら、自然と体重が減りました。

それから毎日健康体操をしています。

筋肉トレーニングです。

60 歳の時の筋力を 100 とすると、65 歳になった時、何もしていない人は 30%筋力が落ちるそうです。

70 歳になると、70%の筋力が落ちるそうです。

筋肉が落ちない方法を舘野先生に教わって、毎日実践しております。

そうしましたら筋肉がだんだんと付いてきました。

上半身は簡単に付きますが、下半身はなかなか付きません。

色々な方に伺うと、皆さんご自分の健康体操を持っておられるようです。

どうぞご自分の健康を維持する為の運動を何かされると良いと思います。

私の母は 60 代の時に、夫婦で毎日 2 時間散歩をしていました。

その時の筋肉の貯金がありますから、90 歳になった今も、どなたの手も借りずに一人で歩けます。

毎日八ガキ絵を書いています。

母親に絵手紙を毎日書いて出しています。

母親が一人で住んでおりますので、ごく普通の日常の事を書いて出すだけで、親は安心

してくれます。

それがリズムになっています。

読書も毎日の生活習慣になっております。

一日何か本を読まないとは落ち着きません。

今朝は3時間ほど本を読んでいたもので、非常に心が穏やかで爽やかです。

心が洗われるような本も好きですし、マンガも読みます。

郵便物の処理も生活習慣の一つです。

手紙を戴いたりFAXやメールが毎日届きますが、これらは必ず見た日に返事をするように心掛けています。

2、3日溜まると、処理するのが一苦労です。

年に4回出している四季だよりも生活習慣のひとつです。

春夏秋冬の年賀状ですが、面白いもので、私が相手の方を忘れても、相手の方が私の事を覚えていて戴けます。

私は仕事をする上で、お客様との付き合いは五分と五分だと決めております。

相手がいくら大企業でも、素晴らしい方だと言われていても、全部五分と五分です。

大きな会社から仕事を戴いた時にも「仕事は五分と五分、うちはきちんと仕事をしますから、きちんとお金を払って下さい」と、必ず最初に言います。

五分と五分ですから、嫌な仕事はお断りしています。

仕事を進める上で、うそをつかなければならないような仕事を頼んでこられるお客様がたまにいますが、自分の心が汚れるような仕事はしないと決めています。

人との付き合いも五分と五分だと決めています。

これは生活習慣の中に入り込んでいます。

それから生活習慣になっているのがパソコンです。

毎朝毎晩パソコンを開けています。

予定表を見る事も毎日の習慣です。

一日の予定表は、必ず何度も見直しをします。

常に持ち歩く予定表は、日々の予定表・1週間の予定表・1ヶ月の予定表・1年分の予定表・人生一生分の予定表で、これを毎日見えています。

こういった生活習慣を進める中で毎日確認している事は、快眠・快便・快食・快汗（気持ちの良い汗をかくこと）・快声（気持ちの良い声を出すこと）です。

快声については、私は詩吟と論語の素読をしています。

生活のリズムの中で、困ったと思うものもお話し致しましょう。

最近忘れ物が多くなりました。

出かけてから、「あれを忘れた・・・」と気付くのです。

それから人の名前を思い出せない。

ある程度年齢がいくと当たり前なのだと、自分でも慰めています。

それから、字が書いてあるものを捨てられないで困っています。

小学校の頃に友達から貰った手紙が、未だにとってあります。

この年代になって、使わなくなったものは捨てようと思って今努力中です。

それから声をかける時のタイミング、例えばお礼ですとか、特に忠告する時のタイミングは、余程氣をつけないといけないと考えています。

正しい事、真っ当な事を言う時は、相手を傷つけます。

相手にとって良かれと思う事を忠告する時は、余程注意して氣を配りながら言わないと、相手を傷つけます。

人間は感情の動物ですから、喧嘩になりますね。

そういう事を、私は何度も経験しています。

時間も参りましたので、最後に少し時事問題をお話しします。

最近出た週刊誌に「次官会議の結論を安倍内閣が無視した」という小さな記事がありました。

次官会議を通さずに、安倍内閣は一つの結論を出した。

これは大変な話だと思いました。

日本の国は官僚が動かしています。

内閣に色々な案件が上がるときには、次官会議でOKが出てから上がるわけです。

ですから次官会議を通らない案件が、政府内閣に出るわけがありません。

ところが安倍内閣は、次官会議で決まっていなかった天下りの案件が内閣で議題になり、結

論を出してしまった。

こんな事は、今の日本の官僚の仕組みにおいて、有り得ない事です。

これは私が考えますに、凄まじい内容の記事です。

日本の官僚機構に大きな穴が開いたということです。

安倍内閣の進めるものは、もしかすると小泉さん以上の驚天動地の事になるかもしれない。

そして始めた結果として、この案件は多分ひっくり返されるだろうと思います。

官僚組織は、そう柔なものではありませんから。

官僚に対して、真正面から喧嘩を吹っ掛けたわけです。

小泉さんは官僚に対して、真正面から喧嘩を吹っ掛けてはいません。

それが明確に見えた記事でした。

最後にこういった時事問題も付け加えて、本日のフォーラムは終了致します。

有難うございました。